

# ベトナムの紹介と現在の研究

米山奨学生 ゴ ティ タオさん

## 1. ベトナム国について

ASEAN または日本を含めたアジア全体地域で見ると、ベトナムの位置はほぼ中央になっている。特に、メコン川流域の中では、ベトナムは「東西回廊や南部の回廊」としての機能を有しているため、日本の外務省は、ベトナムはインドシナ地域経済統合と連携促進において重要な役割を果たすと評価した。



また、ベトナムの経済は、GDP が 2,019 億ドルに高まり、日本との輸出入等が発展している。外交関係の樹立から、日本とベトナムの要人も頻りに訪問したり、交流したりしている。この安定した政治・経済要因によって、多くの日系企業がベトナムに進出している。

そして、ベトナムの人口は約 9,270 万人に増加し、東南アジア地域で第 3 位になった。人口状況という点から、消費市場、生産工場だけではなく、平均年齢が若いため労働力が豊かだと言われている。

そのため、日本とベトナムの関係が強く結びついて、日本にとって戦略的なパートナー、重要な相手国だと注視されている。

## 2. 現在の研究の内容について

日本とベトナムの協力が公的に開始されたのは外交関係の樹立 1992 年以降であり、主に二国間の政府開発援助 (ODA) が実施されてきた。

1995 年から現在まで、ベトナムへの ODA を実施している援助国の中で、日本がトップドナーとして 33% を占め、援助金額が約 2.9 兆円を越え効果的に協力を行ってきた。

特に、JICA の 2016 年次報告によると、東南アジアに対する ODA は、ベトナムが 48.9% を占め、隣接するカンボジア、ラオス、タイなどの国々と比べると一番多く、日本にとってベトナムは重要なパートナーだと位置づけられていることが分かった。

ベトナムの社会経済開発戦略と相まって、日本外務省による国別援助方針の中で、ベトナムへの援助の基本方針として「2020 年までの工業化の達成に向けた援助」という目標が挙げられている。その方針の下で、「成長と競争力強化」、「ガバナンス強化」また「脆弱性への対応」の 3 つの大きな課題が挙げられる。具体的には、「成長と競争力強化」の中に、この教育・人材育成分野は重要な分野の一つだと策定された。

本論では、日本からの ODA によって実施された教育・人材育成分野に関しては、実際にどんな協力、どんな成果、またベトナム社会にどんなインパクトを与えたか、それらのプロジェクトにどんな課題、問題点があったか、主に JICA の報告書から把握し考察する。

また、ベトナムにおける日本語教育の実態も考察し、長期的に日越の友好関係に貢献できるこの分野の ODA のあり方を探っていく。

まず、教育・人材育成分野において、日本からの協力は JICA によると 3 つの段階に分けられる。

実は、第 1 段階は戦後から賠償の形で開始されたが、日越の外交関係が公的に樹立された 1992 年から ODA が本格化され、1992 年から 2000 年までの協力は、高等教育の整備、小学校建設などを中心とした、いわゆるハー

ドウェアに関する部分である。

第 2 段階は 2001 年から 2005 年までの協力で、第 1 段階の発展系として、初等教育の質を向上させる目標があげられた。

第 3 段階は 2006 年から現在まで、高等教育における産業人材育成支援に重点を置いて、協力が実施されている。いわゆるソフトウェアに関する協力が中心となって行われるようになってきた。このような段階を追った協力形態と内容の変化は、常にベトナム国内の経済的な変化、産業の変化に合わせて行われてきた。つまり、工業分野の需要が高い時期であれば、工業人材の育成。IT 分野の需要が高い時期には IT 人材の育成。グローバル化人材の需要が高まれば、そういった人材の育成というように、常にベトナム側の経済的な事情と二国間の関係性に呼応する形で、変化をしながら協力が進められてきた。

これまで、それぞれのプロジェクトがベトナム社会、経済発展に対し、大きな成果、インパクトを与えてきたと言えるが、それと同時に問題点も内在している。

これらのプロジェクトの内容、成果について詳細を見ていくと、問題の一つとして日本語教育の不足が挙げられる。不足といっても、日本語教育そのものがベトナム国内で停滞しているわけではなく、むしろ、ベトナム国内の日本語学習者数は、現在約 65,000 人にまでに増加してきている。しかし、学習者数が増加したことだけでは十分ではないと言える。それは、これらの学習者の中で、正規教育外の学習者が過半数を占めているのが実態である。正規の教育機関の中での日本語教育については、日本語を第一外国語にするにはまだまだ不十分な点が多く、民間の日本語教育と比べてアンバランスな状態が続いている。加えて、高度な日本語力を有する人材については依然として不足が続いており、学習者のほとんどが日本語能力試験の基準で言うと、初級レベルに留まっており、これからの二国間を繋ぐ架け橋的な人材としては不十分な状態であると言える。

これはベトナム側の社会状況に起因するものだが、高度な日本語人材を育成するに至っていないと言う点で、産業人材育成支援における問題と共通の問題を抱えている。

これらの問題点を解決するための方法として、本稿においては、ベトナム国内の小学校教育における日本語教育の実施とその広がりや焦点を当て、今後の可能性について論じていくこととする。

※ロータリー米山記念奨学会財団設立 50 周年記念 DVD 視聴

## 閉会点鐘

牛島 聡会長

### 今後の予定

- 11/29 クラブ年次総会「次年度理事役員候補者発表」
- 12/6 クリスマス家族親睦会 (於) ザ・プリンスギヤラリー紀尾井町 36F「オアシスガーデン」
- 12/13 「薔薇の話」園芸コラムニスト 浦辺 琴子氏
- 12/20 「演題未定」榎平凡社  
代表取締役社長 下中 美都氏
- 12/27 年末休会

創立/1993 年 10 月 13 日(平成 5 年)  
事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-2  
グラントマン九段 906 号  
Tel: 03-3288-7300 Fax: 03-3288-7400  
E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp  
<http://tokyo-orc.jp/>

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30  
例会場 ホテルグランドパレス Tel: 03-3264-1111  
会長 牛島 聡 幹事 青木 隆幸  
会報 山下 秀一(委員長) 山田 丈夫(副委員長)  
土居岩生 木宮雅徳 小林大介 永井一史(委員)